

北九州市私立保育連盟
青年会議 第十二代会長

宮原 健輔

青年会議会長としての一期二年を終え、ようやく重圧から解放されるのだと、すがすがしい気持ちでございました。しかしながら、このたび第二期目の続投が決まり、再び大きな責任がのしかかることとなり、身の引き締まる思いです。お引き受けした以上は、これまで以上に責任感と実行力をもって職務を全うしていく所存です。引き続き、青年会議活動へのご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

第二期目を迎えた今年、強く感じているのは青年会議会員一人一人の思考の変化です。目まぐるしく変化する保育情勢の中で、青年会議活動をいかに自園の運営や保育内容に結び付けていくのか。正解のない問いに向き合いながら、各園での課題や取り組み、時代に応じて変化させていること、そして新たに挑戦などを共有し、運営に必要な情報を収集するとともに、変化に対応する柔軟さや新しいことへ踏み出す覚悟を持って活動している姿が見受けられます。そのような思考の広がりから、県内にとどまらず県外にも視野を広げ、青年会議のつながりを大切にしたい独自の研修交流会を定期的に開催していくことといたしました。

コロナ禍以降、わっしょい百万夏まつりや北九州市保育研修大会など、青年会議が活躍する場は減少しています。その分、青年会議の存在意義をこれまで以上に外部へ発信していく必要性を感じています。発信の重要性を会員一人一人が理解し、力を結集して新たな挑戦を続けていくことが、今後の大きな課題です。

今後とも諸先輩方のご指導、ご鞭撻を賜りますとともに、新たな仲間の加入促進に向けたご協力を、何卒よろしくお願い申し上げます。

事業研修報告 —R6～R7年度— Training Report

【大分県保育施設視察会】

保育DX推進に向け、青年会議のつながりを活かし、最先端でDXを推し進めている大分県の園との視察勉強会を開催いたしました。そもそも「DXとは何か」という基本的な部分から学ぶ機会となり、教えていただく内容はどれも新鮮で斬新なものばかりで、時間が経つのを忘れるほど興味深い学びとなりました。

このような貴重な機会を青年会議を通して得ることができたことで、地元青年会議内においてもDXに関する意識が高まり、意見交換や勉強会が活発に行われるようになりました。その結果、会員それぞれが自園での活用を意識しながら考えるようになり、保育DXへの第一歩を踏み出すことができたと感じています。

今後はさらにさまざまなツールや考え方を取り入れながら、青年会議ならではの視点を活かし、保育現場の効率化と質の向上につながる取り組みを進めていきたいと考えています。



【性教育ははじめの一歩～子どもの育ちを見守る大人が知っておきたいこと～】

講師に助産師の道園亜希氏をお招きし、幼児期からの性教育は、子どもが自分の心と体を大切に、安心して成長していくための基盤を育むものであることを学びました。海外では幼児期から性教育が段階的に行われており、体の名称や境界意識、自分の気持ちを伝える力を育てることが重視されていると説明がありました。性教育は性行為を教えるものではなく、命の大切さや体の違いを知り、自分や他者の体を尊重する姿勢を育むものです。幼児期には、発達段階に応じて体の名称を正しく伝えることや、触れてよい・よくないの境界を知ること、自分の気持ちを言葉で表現する力を育てることが重要であると学びました。これらの学びを日常の保育の中で丁寧に積み重ねていき、子どもが自分を守り、他者を尊重する力の成長に繋げていきたいと思えます。



Members Interview

青年会議では、研修大会を通じ、他市・他県の保育関係者と情報交換の機会があります。その中で得た情報を保育内容や施設運営に取り入れていき、自園の発展に繋げています。今回は自園に導入し、取り組んできた内容や感想、課題等を会員に取材してきました。

理念とクレドの意義

認定こども園 三ツ葉保育園 園長 藤井康介



青年会議では、他都市の青年保育者との交流、勉強会、他園視察など、保育を多面的に学べる機会が数多くあり、そこで得られた視野の広がり大きな財産となりました。多様な園の取り組みや価値観に触れる中で、ある青年保育者の園が大切にしていた「理念」と「クレド」の存在を知り、強い衝撃を受けました。理念が判断の拠り所となり、クレドが日々の行動基準として息づく園ほど、子どもへの関わりが一貫し、保育の質が安定していることを目の当たりにしたのです。この学びは、自園の在り方を見直す大きな転機となりました。園長就任後、私は理念とクレドを園づくりの中心に位置付け、職員全員でその意味や背景を丁寧に共有する取り組みを始めました。園内研修を継続的にを行い、対話を重ねる中で、職員一人ひとりが理念を「自分の言葉」として語れるようになり、クレドは迷った時の確かな指針として自然に使われるようになっていきました。

こうした積み重ねにより、「三ツ葉らしさ」は以前より明確な輪郭を帯び、園全体の一体感が確実に深まりました。子どもへの関わりや職員同士の判断が揃い、園の特色と保育の質が着実に向上していることを実感しています。青年会議で得た学びは、自園の成長を力強く後押ししてくれました。これからも仲間との交流を大切にしながら、理念を行動で示す園づくりを進めていきたいと思っています。

学び合える『つながり』

認定こども園 キンダーポート保育園 園長 林田幸大



私は保育業界に来てまだ2年足らずですが、青年会議に入ったことでいろんな保育園の園長先生と関わりを持つことができています。実際に保育園で困っていることを相談したり、日々変化していく保育についてタイムリーな情報共有ができてきたり、また保育に対する考え方などを丁寧に教えていただいています。同時に、自分自身の保育観の未熟さや考え方の甘さに気づくことが多々ありますが、様々な意見や考え方に触れることで、視野が広がり、とても良い刺激になっています。

他にも、園ごとの課題や取り組みを知ることで、自園での課題、改善点を客観的に見つめ直す良い機会にもなっています。他園の保育の状況を聞くことで、新たな視点や発想を得ることができるようになりました。青年会議の良さだと思います。青年会議を通して得た学びは、保育の質を高めるための考え方、姿勢を見直すきっかけとなり、よりよい保育を目指して前向きに取り組んでいく力において、働きやすい環境づくりにもつながっていると感じています。

私はまだ「保育園の『ほ』の字」がやっと分かってきた段階ですが、これからも多くのことを学び、吸収し、自身の成長につなげていけるように努力していきたいと思っています。

ICTを通じて得たもの

認定こども園 みつばち保育園MOJIKO 園長 蜂谷将邦



職員からの要望もあり、ICT化を今以上に進めることが必要だと感じていた中、同会の先生や他県の先生方から、実際に現場で使いやすいアプリ、運用方法について具体的に教えていただきました。一部の職員から「これまで通り手書きの方が楽ではないか」など戸惑いがありましたが、職員主導のもと話し合いを重ね、一人一人が前向きに取り組んでくれたおかげで、現在ではほとんどの書類をデータ化しています。各クラスのPC・スマートフォンから情報の共有・確認が可能となり、連絡や伝達が格段にスムーズになりました。また、過去の行事内容の把握や振り返り、準備、お知らせ作成にかかる時間が大幅に削減されたり、個人情報を除く資料は、災害時や急な在宅対応が必要な場合でも業務を継続できる体制が整ったり、クラスのスマートフォンから音楽再生や楽譜のダウンロードができるなど、日々の保育において効率化を実感しています。しかしそれ以上に、ICT促進のために意見を出し合うことで職員の団結が深まったことが何よりの喜びです。

機器やシステムの導入には相応の時間や費用がかかりますが、職員の負担軽減と効率化を通じて、子どもたちと向き合う時間をより多く確保するための必要な投資だと考えています。今後はDX化も視野に入れつつ、職員と歩幅を合わせながら工夫を重ね、より良い保育環境づくりに努めてまいります。

編集後記

青年会議での交流から得た学びは、自園の取り組みを見直す大きなきっかけになりました。共有した気づきを園に落とし込むことで、保育の質や業務の流れが整い、子どもにとってより良い環境づくりへとつながっています。共に学び合える仲間の人会をお待ちしております。

[編集担当] 広報部部长 藤井康介・広報部副部长 西村慎太郎 蜂谷将邦